

呼吸器外科 臨床研修到達目標

1. 特徴

胸部腫瘍性疾患に対しては、診断から内科的および外科的治療までを担当しています。

呼吸器外科手術の多くは、患者さんに負担の少ない胸腔鏡手術をおこなっています。

各種ガイドラインや最新のエビデンスのに基づき、患者さんに最適な治療を提供できるよう日々努力しています。

2. ねらい

呼吸器外科に必要な基礎的医学知識、技術を習得する。

3. 一般目標

1) 診断

- (1) 正常気管支、肺区域の解剖を理解できる。
- (2) 胸部単純 X 線写真、胸部 CT 検査を必要に応じて的確に指示でき読影することができる。
- (3) 肺動脈造影を指示し、施行読影できる。
- (4) 気管支ファイバースコープの前処置、麻酔法、基本的手技ができる。
- (5) 経気管支肺生検の基本的手技を理解できる。
- (6) 経皮的針生検の基礎的手技を理解できる。
- (7) 外科病理（肺癌）切除標本の検索ができる。

2) 処置

- (1) 胸腔穿刺法、胸腔ドレナージ法を正しく理解し、実践できる。
- (2) 胸部外傷の救急処置を習得する。

3) 治療

- (1) 肺癌における各種検査結果を総合的に判断し治療法・術式を選択できる。
- (2) 標準開胸術（腋窩開胸、後側方開胸）を習得する。
- (3) 胸腔鏡手術の基本的手技ができる。
- (4) 肺癌の手術の基礎的知識を習得する。
- (5) 開胸術後の呼吸、循環管理の基礎的知識を習得し実践できる。
- (6) 患者の QOL に応じた正しい治療法を選択できる。
- (7) 抗癌剤の種類と使用方法を習得する。
- (8) 末期癌患者の全身管理を習得する。

4. 研修方略

研修医一人に対し、指導医が全般に渡る研修指導にあたる。

新入院症例検討会、術後症例検討会での症例呈示により全症例に対する理解を深め、知識を養う。

検査としては気管支鏡、経皮的肺生検、胸腔穿刺を学ぶ。

治療としては経気管支鏡的レーザー治療、ステント挿入、胸腔ドレナージ、さらには手術に参加し、標準的術式を学ぶ。また、非手術適応例、術後補助的の必要な症例に対する化学療法を学ぶ。癌性疼痛のある症例に関しては WHO 方式に準じた除痛法を学び、実践する。

5. 週間スケジュール

科	月	火	水	木	金	土
呼吸器外科	外来手術病棟	外来病棟	手術病棟	外来病棟	外来病棟	外来病棟
	手術病棟 症例検討会	内視鏡 (TV透視下または 内視鏡センター) 病棟	手術病棟	内視鏡 (TV透視下または 内視鏡センター)	化学療法病棟	

6. 研修評価

- 1) 自己評価：EPOC2 を用いて自己評価を行う
(症候、疾病・病態の経験についてはEPOC2にて確認を行う)
- 2) 指導医による評価：EPOC2 を用いて研修医を評価する
(症候、疾病・病態の経験についてはEPOC2にて確認を行う)
- 3) 研修医による研修体制評価：EPOC2 を用いて診療科全体（指導内容、研修環境）を評価する

7. 指導体制

指導責任者 梶原 直央

指導医 今井 健太郎

河口 洋平

中村 太陽